

科目名	学年	規定時間数	担当する教員の实務経験	授業内容
基礎理学療法学	1	30	理学療法士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する	「理学療法概論」の延長線上にある科目。理学療法の各種治療方法やその内容、対象、記録の仕方などを学ぶ。この科目を基礎に、2年生以降で学習する「臨床医学」や「理学療法専門科目」に対する学習意欲を高めるきっかけとなる重要な科目である。
理学療法基礎評価演習Ⅰ	1	60	理学療法士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する	理学療法を実施する上で、障害の状態を正確に把握し、問題点を的確にとらえ、治療方針を立てるために評価を行う。正確で信憑性のある評価を行うことが、理学療法士の技術として大切になる。この科目では様々な評価項目、測定・検査の意義、測定手技を学ぶ。
運動療法総論	1	15	理学療法士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する	さまざまな疾患により引き起こされる機能形態障害は、それぞれ治療原則が異なります。機能形態障害の予防から悪化防止のためのアプローチ方法の一つに運動療法がある。大きく日常生活の活動性に影響を及ぼすことを理解したうえで運動療法を障害学の視点から学ぶ。
地域リハビリテーションⅠ	1	15	理学療法士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する	地域で暮らしている障がい者や高齢者がどのような生活をして、地域活動をしているかを、特徴ある拠点の施設を見学して体験を通して学ぶ。特に障がい者が地域の中で生活していることを学ぶ。
理学療法基礎評価演習Ⅱ	2	60	理学療法士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する	理学療法を実施する上で、障害の状態を正確に把握し、問題点を的確にとらえ、治療方針を立てるための評価の演習を行う。正確で信憑性のある評価を行うことが、理学療法士の技術として大切になる。この科目では様々な評価項目、測定・検査の意義、測定手技を学ぶ。
理学療法総合評価実習	2	45	理学療法士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する	理学療法評価学で学んだ身体の形態測定、関節運動、筋力、関節可動域等を中心とした検査方法の実習・実技を学ぶ。運動器障害および神経障害の代表的な疾患について、測定・評価方法を学ぶ。確実な評価手技の修得を目標にゼミ形式で授業を進める。
義肢・装具関連理学療法	2	30	理学療法士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する	リハビリテーション医療における義肢および装具の役割は大変重要で、本来のリハビリテーション医療の概念そのものと言っても過言ではありません。義肢と装具の治療方法を科学的に分析し学習します。
日常生活活動学演習	2	30	理学療法士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する	疾患別に、日常生活活動について必要な指導や介助方法を学びます。また、演習を通して実際に体験し障害像のイメージを膨らませることで、日常生活活動指導を適切に行えるようになることを目標とします。
理学療法管理学	3	15	理学療法士として授業内容にかかわる実務に5年以上の経験を有する	理学療法業務に携わる上で必要な基本的知識を理解し、業務上管理していかになくてはならないものは何か、また組織の一員として求められるものは何かについて理解する。
	計	300		